

【1面から】の使い方、教育費の使い方が間違っているのではないかなどと答えました。

また大学で学んでみたいこととしては、「受け身でなく主体的に学びたい」「フィールドワークをしてみたい」「自分の視野を広げたい」との回答が多く寄せられました。なかには在学生との対話に



対話アンケートにとりくんだ藤沢直人県委員長は「相手の話をよく聞き、日本社会の現状を『深掘り』していくと社会の異常さに気づくようです。今回はアメリカ言いなりの話を伝えましたが、学生にはかなり関心があることが分かりました。加盟にはいたりませんでした。知らせる活動は大事です」と語りました。

2025丸亀市議選

直前インタビュー①

4月13日告示、20日投開票の目前の丸亀市議選を目前に日本共産党の現職の中谷まゆみ丸亀市議、新人のささい孝志氏にインタビューします。

(中谷、笹井の表記、インタビュー中敬称略) 全2回に分けて掲載します。

Q1 丸亀市はどんなところですか。

【笹井】丸亀市は合併20周年。自然に恵まれて南は讃岐山脈北は瀬戸大橋の瀬戸内海まで

【2面から】幅広い面積になつて農業を中心としてやっている。山にはため池も多く、本島や牛島、広島など島しょ部もあります。

中谷「名産は讃岐うどんや骨付き鶏、工芸品のうちわ農産物は桃などがあります。高松や坂出、丸亀に通動している人のベッタタウンになっています。」

Q2 丸亀市政で感じる問題意識や課題は何ですか。

で、厳しい経営状況の中で、「いつまでやれるんか」という思いで続いている店が多くあります。あとは、耕作放棄地や農地転用が増え農業用地が減っていることや、いわゆる「空き家」も増えているのが問題だと感じています。

中谷「丸亀市は、財政的に丸亀ボートの収入に税収がものすごく左右される町です。例えば、「学校給食の無償化」や「18歳まで医療費無料化」とか、農業政策



【笹井】暮らしや生業(なりわい)を守ることに一番だと思っています。私は農家の出身。「食は命の源」なので農業を必ず守るという市政をつくりたいと思います。それと、何となくもやっぱり中小業者はいま大変ですよ。コロナ禍のあと、いまもバタバタと本当に頑張ってきた老舗のお店も含め、どんどん中小業者は潰れていきます。高松に次いで丸亀は香川県で二番目に大きい市。居酒屋とかスナックとか、本当にコロナの中

「日本被団協」が

ノーベル平和賞を受賞

香川の一会員として今思うこと④ 藤井 明

地球に生きている人はみな「被爆者候補」だ！核配備の実態と核戦争の現実

被団協のノーベル平和賞受賞を受けての発言で、印象深かったものが二つあります。そのうちのひとつが、日本被団協代表委員である田中照巳(てるみ)さんの核兵器が廃絶されなければ「地球に生きている人はみな『被爆者候補』だ」というものでした。「いざとなったら核を使うぞ」と言う「核抑止力論」の本質と、私たちの置かれている状況をこれほど端的に表現した言葉はないと思います。そして、「今の状況では私たちはいつ『被爆者』となっても不思議ではないのだ」と言う事実を、この「被爆者候補」と言う言葉を使っ

て人々の共通認識にして行きたいと切実に思いました。核兵器を取り巻く状況は現実的にも一触即発です。スウェーデンの「ストックホルム国際平和研究所」は、昨年1月時点での世界の核弾頭の総数を1万2121発と推定し、その3割以上にあたる3904発が実戦配備済みの状態だと報告しています。つまり、4000発近い核弾頭が、スイッチを押せば発射可能だという事です。しかも、それぞ

れ広島型原爆の二十数倍の威力だと言われていますから、仮にもう一度広島に投下されれば、広島県はもちろん中四国全体に惨禍が及び、そこに住んでいる「被爆者候補」は直ちに「被爆者」とならざるを得ません。更に、ロシア、或いは中国とアメリカが核弾頭を打ち合うと言うような事態にな

れば、地球は破滅です。『核戦争…一つのシナリオ』と言う著作のあるアメリカの調査報道ジャーナリスト、アニー・ジェイコフセンさんによれば、ミサイル発射から「核の冬」までの全てが72分間のうちに起こり、「世界は数時間で滅びる」と言うシミュレーションもあるそうです。この場合、私たち「被爆者候補」は、「被爆者」ではなくそのま

ま「死者」となってしまう。そして、もう一つ忘れてはならない問題があります。それは、「事故の危険性」と「誤探知の可能性」ですが、これらについては次の回で触れたいと思います。



【笹井】私の場合は丸亀には「市政を考える会」が合併直後からあってその市民団体の代表世話人を10年やっています。いろんな市民の人の意見を取り入れて、毎年、市長に予算要望するとかね。そのマルタスの指定管理料が毎年1億3000万円。ところが何に使われているかは、マルタスは私企業だから、公表しない

て黒塗りで出してきたのを、審査請求をして、公表せるとかそういう活動をしてきました。

コロナ禍には、居酒屋やスナックとか、美容室や花屋、食堂とかの多くの地域の業者さんに直接伺い、持続化給付金の申請の援助をしました。困った人を「これは助けないといけないな」との思いで【4面につづく】

担軽減のために引き続き活動していく」と述べました。物資の提供や募金はいつでも受け付けています。後援、協力する地区委員会または県委員会までお持ちいただけますとありがたいです。



連絡先は
担当：民青同盟・藤沢
後援・協力
日本共産党香川県委員会
087-834-7311

まんぷくプロジェクトを実施 民青

民青同盟香川県委員会は香川大学工学部前で1月22日学生への無料食料支援「ほっとまんぷくプロジェクト」をしました。学生は、笑顔で食料品を受け取って「ありがとございました」と口々に感謝を述べていました。対話やアンケートでは学生から「全国で大学の学費が値上げの検討は嫌」「奨学金月8万8000円借りていて生活が大変だ」などの声がありました。民青同盟の藤沢直人香川県委員長は、「物価高と高学費で生活が困窮している学生が多い。負